一般社団法人 日本食品包装協会

食包協会報 第 183 号（2024 年 7 月号）ご案内

平素は「食包協会報」をご愛読いただきまして誠にありがとうございます。このたび 183 号（2024 年 7 月号）を公開致しました。今号では「材料・素材」をメインテーマに、3 編の記事および会告を掲載しております。

まず最初の記事では、バイオマスレジンホールディングス執行役員の坂口和久様に「コメ由来バイオマスプラスチック「ライスレジン」での取組み」と題しましてご執筆いただきました。ライスレジンの概要、特徴、成形プロセスや、適用例、効果、素材、ラインナップが紹介されており、また、こちらの素材を、石油由来樹脂製品からの代替が可能な国産材料による新たな環境低負荷型の製品として提案されております。

2 つ目の記事では、興和株式会社　産業関連事業部　プラスチックスマート部の松野下恭弘様に「炭酸カルシウムを主原料とした脱プラスチック素材「STONE-SHEET®」を活用した容器包装」と題しましてご執筆いただきました。炭酸カルシウムを主として構成された STONE-SHEET®を使用した商品の様々な可能性が感じられる内容となっております。

3 つ目の記事では、東京農工大学　大学院農学研究院　准教授　小瀬亮太様に「東京農工大学における紙の基礎と応用研究」と題しまして、環境調和性の高い材料として注目を集める紙やセルロースナノファイバー（CNF）を研究対象とした基礎及び応用研究について紹介していただきました。こちらの研究室では、自然界が生み出した様々なセルロース繊維を素材として、水の力を借りた紙づくり、ものづくりの可能性を追求されています。

最後に、会告として事務局から弊協会が開催いたします「2024 年「第 33 回食品包装人材育成講座(初級)」の案内をさせていただきました。こちらの講座は、食品包装の経験の浅い方々に広く食品包装を学んで頂ける導入講座となっておりますので、新しく入社された方々、食品包装関連の部署に異動された方々など、多くの方々にご活用頂けましたら幸いです。

弊協会広報活動委員会では、これからも会員の皆様にとって有益かつ魅力ある記事の発信に努めていきたいと考えております。引き続きご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご多用のところ執筆を快くお引き受け下さいました坂口様、松野下様、小瀬様に心から厚く御礼申し上げます。

2024 年 7 月 31 日

広報活動委員 吉田　恵理